

基本目標1 「支え合い」を育む人づくり

市民一人ひとりが性別、年齢、障がいの有無、国籍などに関わらず地域社会を構成する一員として多様性を認め合い、「支える」、「支えられる」という一方的な関係ではない「支え合い」の意識を、交流や学びの場などの様々な機会を通じて育み、シチズンシップ(社会を構成する一員として、より良い社会を創っていくために、一人ひとりがもつ当事者意識及び行動力をいう。)を高め、地域福祉を担う人材となるよう、その発掘、育成、支援を行います。

(1) 福祉学習の推進

学校教育や社会教育などの様々な場面を通じて、市民が地域や福祉、人権に関して正しく理解し、地域の様々な課題に気づき、自分のこととしてとらえ、その解決に向けて自ら取り組んでいく意識を醸成します。

【現状と課題】

- 気軽に参加できる福祉に関する講演会やイベントは、最初のきっかけづくりとして大切な取り組みです。しかし、働いているなどで時間に余裕がなく、興味はあってもボランティア活動などに参加できない層が存在するのと同じように、講演会等に参加したくても、参加できない層がいると考えられます。
- 現在、学校教育においては、子どもたちの健やかな成長を地域全体で支えていくことを目的として、学校の求めに応じて地域の豊かな社会資源を活用し、子どもたちが地域社会で体験的に学ぶ取り組みが進められています。
- 平成25年度からは市内外の2大学の「地(知)の拠点整備事業(大学COC事業)」と連携し、尼崎市の特性や課題などについての講義を行うほか、学生たちが課題解決に向けて調査や研究等を行っています。
- また、社会福祉施設などにおいても、小学生向けの介護職等の職業体験イベントを実施するなど、様々な取り組みが行われています。
- しかしながら、若い人を地域で巻き込む取り組みが単発的になっているといった指摘もあり、様々な年代の人が、様々な学びの場に参加する機会を増やすとともに、継続的に学ぶことのできる仕組みづくりが必要とされています。

【これからの取り組み・方向性】

- 地域での集まり、企業内研修などのあらゆる機会を通じて、地域課題に関心や理解を持つ層を増やす取り組みを進めます。
- また、個人の単発の学びに終わらないよう、交流・体験などを通じて仲間づくりや福祉活動への参加を促進するなど、参加者自身の知識や能力を活用して行う地域貢献が、自己実現にもつながることを実感し、主体的に参加する意欲を高める取り組みを進めます。
- 学校教育を地域が支える取り組みを進めることで、子どもや学生が地域と関わり、地域に対する愛着や誇りが育まれるよう取り組みます。
- 地域社会への関心を高めるとともに、課題解決に向けた知識や技術を学び、次の担い手となるよう、若い世代が地域課題の解決に体験的に取り組むことを推進します。
- みんなの尼崎大学の取り組みを活用し、福祉課題の解決に向けた意識を醸成するための体系的な学びの場を作ります。

Pickup

新たな担い手づくり
の取り組み

◇「みんなの尼崎大学」の取り組み

～みんなが先生、みんなが生徒、どこでも教室～

みんなの尼崎大学は、「みんなが先生 みんなが生徒 どこでも教室」をキャッチフレーズに、まち全体を大学に見立て、学びをきっかけに人や活動が連携することで、より楽しく学べるまちにするための取り組みです。（学校教育法上の大学ではありません。）

具体的には、すでに市内で多く実施されている講座について分野や段階別に検索できるウェブサイトの構築や、多様な講座の提供主体同士が出会い、連携するきっかけとなる「みんなの尼崎大学オープンキャンパス」の定期的な開催等です。

また、まちの人がセンセイとなって、教え学びあう「みんなのサマーセミナー」の取り組みも市民との協働事業として始まっています。

第2回目の開催となった平成28年度には、320以上の講座が実施され、延べ約3,500人の参加があり、自身の学んだ成果を他の人に伝える場、市民の交流が生まれる場として成果がありました。

みんなが生徒

学びの場が連携することで、みんなが学びたくなるような魅力的な企画が増え、好奇心を忘れず学び続けることができます。

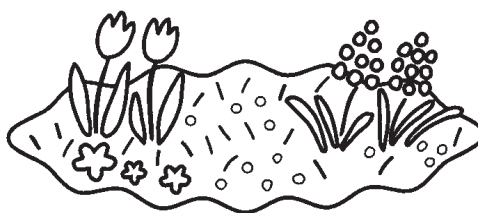
どこでも教室

公民館や図書館だけでなく、机や椅子がなくても、まちのあちこちで学びがあふれます。



みんなが先生

今まで培った知識や経験、学んだ成果を人に伝えることができます。きっかけを作ります。学びを深め、新たな気づきを得られます。



(2) 地域福祉活動の担い手の発掘・育成・支援

地域社会が抱える様々な課題の解決やまちづくりを進めていくために、性別、年齢、障がいの有無、国籍、地域住民かどうかに関わらず、全ての市民が主体的に地域の担い手として活躍できる仕組みづくりを市民とともに進めます。

【現状と課題】

- 地域福祉活動の担い手不足が一層深刻となっています。活動に関わる人の固定化(高齢化)や新たな担い手が見つからないことで、特定の活動者への負担が増大し、活動を続けることが難しくなることが懸念されています。
- 退職後のシニア世代は、生きがい・健康づくり、社会貢献への参加意欲が高く、豊富な経験や知識を活用して、地域活動の重要な担い手として活動しており、今後もより一層の活躍が期待されています。
- 一方で、アンケート結果からも若い世代には「きっかけがない」や「情報を知らない」「一人では参加しづらい」といったことを理由に地域活動への参加が少ない状況が見受けられます。きっかけや仲間がいれば、地域活動に参加したいと考える若い世代をどのように取り込んでいくのが課題となっています。
- 平成 29 年 4 月からの介護保険制度における介護予防・日常生活支援総合事業(以下「総合事業」という。)の実施に合わせ、介護予防や支え合いの地域づくり、高齢者の生活を支援するための新たな担い手づくりの推進などが課題となっています。
- 尼崎市では、地域をより良くするため市民が自ら考え、力を合わせて取り組む公益的な事業を支援しています。また、次世代の社会の担い手となる人づくりとして、若い世代が自ら考え、力を合わせて地域をより良くする取り組みに関わる機会を増やし、そうした活動を通じてシチズンシップを高めるために、高校生グループに対して企画づくりから活動の実践までを支援しています。
- こうした取り組みをはじめ、地域社会が抱える様々な課題の解決やまちづくりを進めていくためにも、性別、年齢、障がいの有無、国籍、地域住民かどうかに関わらず、本市に関係する幅広い人々の参画と協働の仕組みづくりが求められています。

【これからの取り組み・方向性】

- 若い世代に地域の活動の情報を幅広く知ってもらうために、ソーシャル・ネットワーキング・サービス(SNS)などインターネットの活用等による情報発信に取り組みます。
- 市社会福祉協議会ボランティアセンターでは、高校生などの若い世代を対象にボランティア講座等を開催し、その参加者がボランティア講座の企画、運営に参加するなど成果があらわれています。こうした取り組みを進めるボランティアセンターの活動を支援します。
- 市民が自ら考え、力を合わせて取り組む公益的な事業を支援する「あまがさきチャレンジまちづくり事業」等において、引き続き、福祉課題の解決に向けた取り組みを支援します。
- 平成 29 年度から介護保険制度の総合事業において、新たな担い手の拡大に向け「生活支援サポーター」の養成に取り組みます。この「生活支援サポーター」をはじめ、地域福祉活動を希望する人に対しては、その人の能力、希望に応じてマッチングを行う仕組みの充実を検討します。

(参考) 生活支援サポーターの養成 (平成 29 年 4 月から実施予定)

高齢者の地域生活を支えるための担い手の裾野を拡げるために、「標準型訪問サービス (※)」の提供に従事するほか、地域における訪問型支え合い活動の一員となって活躍する「生活支援サポーター」を養成する「生活支援サポーター養成研修」の実施が、平成 29 年 4 月から予定されています。

※介護保険制度の指定事業者が雇用する生活支援サポーターによる訪問型の生活援助

Pickup
新たな担い手づくり
の取り組み

◇ アマの未来をデザインするワークショップ (あまらぶジュニアコース)

次世代の地域活動の担い手となる青少年のシチズンシップの育成を目指し、あまらぶチャレンジ事業において青少年向けのコースを設置しています。

このコースでは、市内在住または在学の高校生を対象に、専門の講師によるワークショップを通して企画の練り方から実践まで学びます。また、高校生のグループには大学生のファシリテーターがつき、企画づくりをサポートします。プレゼン審査に通過したグループには補助金を交付し、まちづくりを実際に体験してもらいます。



◇ 認知症サポーター養成



認知症サポーターキャラバン

認知症は、誰にでも起こりうる脳の病気です。

認知症になっても、周囲の理解と気遣いがあれば住みなれた地域で暮らしていくことができます。

尼崎市では、高齢者の安心・安全を支える人の輪を広げ、認知症になってもご本人及びその家族が住みなれた地域で安心して生活できることを目指し、「認知症サポーター養成講座」を実施し、「認知症サポーター」を養成しています。

「認知症サポーター」は、何か特別なことをする人ではありません。認知症について正しく理解し、認知症の人やそのご家族を温かく見守る応援者 (サポーター) です。自分のできる範囲 (家庭や職場、地域など) で活動します。

認知症サポーター養成講座は小・中学生、高校生などの若い世代から、PTA、民生児童委員、自治会、NPO等の各種団体の方などの幅広い世代・職域の市民が受講しています。

(3) 地域福祉活動を支援する人材の育成

多様化・複雑化する課題の解決に向けて、地域の様々な活動、専門機関をつなぎ、支える人材を育成します。

【現状と課題】

- 人々が地域で安心して暮らすことができるよう、地縁団体、NPO 法人、ボランティア団体、社会福祉法人などの様々な団体による活動や福祉専門職による支援が行われています。
- 一方、地域の課題が多様化・複雑化する中で、単独の団体や専門機関だけでは、解決できない課題も増えており、そうした課題の解決に向けて、地域で行われている様々な活動と福祉専門職が連携、協働して取り組むことが必要となっています。
- 民生児童委員、福祉事業者のアンケート結果からも、普段及び今後の相談・連携先には各専門機関だけでなく地域で様々な活動を担っている自治会・町会役員との連携を必要とする結果があらわれています。
- 社会福祉協議会支部事務局に配置されている地域福祉活動専門員や、市の子育てコミュニティワーカーが中心となって、情報の共有、様々な機関・団体との相互連携の促進などの支援が行われています。こうした地域の活動等を支援する専門職の取り組みにより、地域の様々な団体が協働しながら、自主的に食や学習支援を通じた子どもの居場所・交流の場づくりが進められています。
- このほか、地域の様々な課題に取り組む市民活動の活発化を目的として、市民活動の主体同士のつながりづくりに取り組む NPO 法人もあります。
- こうした取り組みをさらに進めるために、地域の様々な活動主体と様々な分野の専門機関が連携し、ともに地域の課題に向けて協働することを支援していく人材の育成が必要とされています。

【これからの取り組み・方向性】

- 引き続き、地域の活動をつなぐ中心的な役割を果たす市社会福祉協議会の地域福祉活動専門員に対しての支援を行います。
- 各団体との連携に取り組む NPO 法人等の取り組みに対しての支援について検討を行います。
- 窓口で地域課題に接する市職員一人ひとりが、市民が行う活動を支援するために多様な主体をつなぐことを意識するよう地域福祉に関する研修を実施します。
- 多様な福祉専門職が、地域住民と協働するための取り組みについて検討を進めます。

Pickup
つながりづくり

◇ 地域福祉活動専門員とは？

高齢者や障がい者、子育て世帯をはじめとする住民ニーズが多様化、複雑化しているとともに、日常生活の中で支援を必要としながらも、そのニーズに対応する制度が存在しないなどの、いわゆる「制度の谷間・狭間の課題」を抱えたまま、潜在化している人もいます。

そうした課題に対応するため、市社会福祉協議会では、より身近な地域での支え合い活動を推進する地域福祉推進の専門職として、「地域福祉活動専門員」（生活支援コーディネーターを兼務）を社会福祉協議会支部事務局に2人ずつ、市内に計12人配置し、身近な窓口として地域の活動等の支援を行っています。



【地域福祉活動専門員に期待される役割】

- | | |
|-------------------------------|-----------------------------------|
| (1) 地域での活動の全体把握 | (7) 地域住民が地域の生活・福祉課題を共有し検討できる基盤づくり |
| (2) 地域住民の小地域福祉活動に対する理解促進 | (8) 生活福祉課題に地域住民が取り組むための活動支援・組織化支援 |
| (3) 担い手の確保・育成及び担い手と活動を結びつける支援 | (9) 小地域福祉活動計画の策定に向けた支援 |
| (4) 地域福祉活動の展開に向けた支援 | (10) 地域の要援護者に対する個別援助 |
| (5) 地域福祉のネットワーク形成 | |
| (6) 他のコーディネーターとの連携 | |

◇ 子育てコミュニティワーカーとは？

子育てに不安や負担を感じる家庭が増え、家庭の子育てを支える地域の力も弱くなっているとともに、地域では子どもの豊かな人間性や社会性を育む機会が減っています。

子どもが健やかに育つ社会環境づくりには、保護者、地域住民、子ども施設、事業者等がつながりを深めて、それぞれの役割のもとに、子ども自身や子育てを支える主体的な取り組みが行われることが重要です。

子育てコミュニティワーカーは、尼崎市子どもの育ち支援条例に基づき、子どもを取り巻く社会環境の改善につなげるため、地域での主体的な取り組みやネットワークづくりを関係機関等と連携して側面から支援するなど取り組みを進めています。

Pickup
つながりづくり

◇ あまがさきNPO市場

市内のNPOの交流を推進し、活動や相互支援を進めていくための組織として、平成26年1月に「あまがさきNPO交流推進ネットワーク」が結成されました。

「あまがさきNPO市場」は、その活動の一環として、尼崎市内のNPO法人や市民団体、福祉団体が一堂に集まり、情報交換や相互アピール等を進めるための交流会として開催されています。

